

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題：がん終末期における化学療法実施の予後への影響についての後方視的調査

研究責任者：藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授 東口 高志

抗がん剤治療は、がん治療における手術、放射線療法と並ぶ「三大療法」のひとつです。近年の抗がん剤の進歩により、入院又は外来通院で抗がん剤治療を継続する患者さまは多くいらっしゃいます。一方で、抗がん剤治療による副作用のつらさを経験する方もいます。抗がん剤治療は、副作用発現の可能性を持つため、その効果と安全性が示された場合にのみに行うことが望ましいとされています。しかし、体力が極めて衰えた状態で、抗がん剤治療を受ける場合や亡くなる直前まで抗がん剤治療を受けることが、現状でないわけではありません。無理な抗がん剤治療は、嘔気や倦怠感などの副作用により、かえって患者さまの体調を悪化させる可能性があります。また、重篤な副作用のために死に至る危険性もあります。このような、積極的な抗がん剤治療が行なえない状況に至った場合、とても辛い選択ですが、患者さまへ現状をお伝えし、無理な抗がん剤治療による体調の悪化を避ける必要があると考えられています。

そこで、私たちは、今後の無理な抗がん剤治療の実施を回避するために、2015年7月から10月に当院緩和ケアチームの診療を受けられた患者さまを対象に、抗がん剤の実施状況を調査することと致しました。調査する項目は、年齢、性別、基礎疾患名などの情報と、化学療法実施歴、化学療法実施中及び実施後の状態を示すデータです。検証に用いる患者さまのデータは厳重な管理のもとで保管管理いたします。

本研究の実施につきまして、データの利用目的を含む情報を本ホームページ上で公開いたします。研究のより詳しい内容をお知りになりたい場合は、他の患者さまの個人情報保護やこの研究の独創性確保に支障がない範囲で、資料を閲覧していただくことが可能です。希望される場合は、担当研究者にお申し出下さい。また、本研究の対象になる患者さまで、ご自身のデータ利用を除外してほしいと希望される方は、下記問い合わせ先までご連絡下さい。速やかに研究対象から除外いたします。なお、除外のお申し出により患者さまが不利益を被ることは一切ございませんのでご安心下さい。本研究の実施により、今後のがん診療及び緩和医療に貢献できると考えております。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

【問い合わせ窓口】 藤田保健衛生大学医学部 臨床薬剤科
教授：山田 成樹（やまだ しげき）
（代）覚前 有希子（かくまえ ゆきこ）
TEL：0562-93-2208 FAX：0562-93-4537
E-mail：syamada@fujita-hu.ac.jp

【研究責任者】 藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座
教授：東口 高志（ひがしぐち たかし）